

# 水の山こども じゃあなる

MIZU NO YAMA KODOMO JOURNAL

発行：北杜市  
編集：水の山こども情報局  
運営：(一社)里くら  
「水の山」魅力発信事業



細く切った大根を干している様子

## 冬に生産する保存食

### うまみのかたまり寒干し大根

1月8日に「小淵沢きびの会」の中沢満会長(74)に話を聞きました。「小淵沢きびの会」は、2007年に「まちっく小淵沢」の中の農業者

団体として生産者組合をつくったことから始まり、たもつ、最初は、「きび」を生産していたことから「きびの会」という名前になった。現在の会員は7人で、「じょうほう共有をしながら共同作業をすることで、連帯感が生まれた」と中沢会長は話している。

「きびの会」では、寒さをかかずに、冬に販売できるものをつくろうと、「寒干し大根」に注目。大根のさいばいから加工まで、すべての作業をしている。11月には、畑に大きな穴を掘り、収穫した大根が凍らないようにわらをかぶせ、12月の終わりに

のやおでん、細い切り干し大根は、にもものやサラダにできている」といいます。「今年は大根が豊作で、1万本の大根が収穫できた」と話した。

寒干し大根は、市内の道の駅や直売所で扱っている。藤原志奈、長坂暁、狩野小夏、河野愛生

### 井戸水でつくったメン 地元の食材へのこだわり



井戸水を使ってメンづくりをしている高根町の株式会社フジハラセイメンでは、ラーメンやほうとう、うどん、そばなど23しゆのメンをせい

ぞうしている。(写真)昭和28年にそうぎようしたフジハラセイメンの浅川健至代表は、「ほうとうは「ハクタク」という中国のメンが日本に伝

わり、長い時間の中で『ほうとう』とよばれるようになった」といいます。ホームページでしようかしているキャラクターは、「ピンクの服が『そばビューティー』、青服が『ホウトウロック』、黄色は『ラーメン次郎』と話した。

メンのせいぞろいは、1日最大7500人分です。ソバ粉は大泉町でつくられたもの、小ムギは地いきて取れたものを使い、「なるべく近い所の材料を集め、新鮮なメンをお客様に食べてもらうように心がけている」と藤原代表と話し、せいぞろしたメンは、地元や市外のスーパーで売っているほか、学校の給食でも使われている。

美味しいメンは、地下100メートルからくみ上げた井戸水を使っているからおいしい、オススメの商品はオリジナルスープを使った「にぼしラーメン」と話した。(大屋美音、椎名香葉、植松楓羅)

### 湧水を使った川魚

#### きれいな水とかんきょうで育つ

高根町浅川で、湧水を使って川魚を育てている川魚専門店「みやま」に行き、大柴明光さんに取材した。

越水湧水を利用したいけすは、横10メートル×幅5メートルの池が3つあり、その中でニジマス5000匹、イワナ500匹、コイ50匹を育てている。水温は一年を通して12度。湧水で育てているので身がしまっており



いけすからニジマスを取り出して説明する大柴さん

しくなるといいます。魚がストレスをためないよう、ひとつのいけすに入れる魚を少なくし、

川魚専門店は、約45年前、大柴さんの父親が「家の近くでわき出ている水を何かに使えないか」と考えたのがきっかけ。大

柴さんが後を継いで今にいたっている。

取材後には、ニジマスの塩焼きを出してくれ、身がホクホクとした食感で、自然に「おいしい」と声が出てしまった。営業時間は午前9時～午後5時まで。定休日は木曜日。(南大輔、中山優里、大野ひなた、伊藤田鶴)

### ひまわり市場 豊富な品ぞろえ 職人がつくる極上寿司

2006年に創業した大泉町のひまわり市場(那波秀和社長)は、品ぞろえが豊富で、一つひとつの商品にこだわっているスーパー。「おいしいかどうか」



「おいしいかどうか」を添加物が入っていないか」をチェックする那波社長のオススメは、職人が客の前でつくる「すし」。朝6時からじゆんびを始め、ふだんは巻きずし用に30キロの米をたくという。節分の時につくる恵方巻きは人気で、

200キロ以上の「ごはん」を用意すると話す。店内に置かれている商品説明のポップは、那波社長が考え、「商品のコメントを書く」と、お客様が読んでくれて、興味をもつて買ってくれるといい、マイクパフォー

また、那波社長は熱い思いが伝わるような、心にひびくマイクパフォーで、商品を紹介し、「美味しいものを食べて、悲しんだりおこったりする人はいない。幸せな気持ちになるから、体にいいものを売ります」と話していた。

3号館では、スタッフ約5人働いており、「安全・安心」なことを大切に、たくさんの人としゃべることができ、日常生活

マンスについては、「5、6年前から始めた。みんなに今日のオススメは何かを伝えたいと思ったから」といいます。

高年齢者通所介護施設の有限会社ほくと夢ポケット3号館(長坂町)に1月8日、取材に行つて横田ひろみ所長に話を伺った。

夢ポケットの名前の由来は、アニメ「ドラえもん」の4次元ポケットのように、人を助けたいという願いが込められている。

また、昼食では栄養のバランスを考え、歯の少ない人にはやわらかいもの、体の弱い人にはあたたかいものを食べてもらい、元

活で、自分のことが自分でできるようにしている。一日の利用者は約15人。当日の取材では101歳の高齢者が利用していた。

また、昼食では栄養のバランスを考え、歯の少ない人にはやわらかいもの、体の弱い人にはあたたかいものを食べてもらい、元

浅川(ひろ、狩野小夏、大屋美音、植松楓羅、藤原志奈、大野ひなた)

